

2022年11月20日
王であるキリストの主日
菊地功大司教 メッセージ

「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれたものなら、自分を救うがよい」

このイエスをあざける議員たちの言葉こそが、王であるキリストとはいったい何者であるのかを、明確に示しています。

全世界の王である神は、自分自身の誉れのために、自分自身の欲望を満たすために、皆に仕えられる存在ではなく、自らがいのちをあたえた全ての人を救うために、自分を犠牲にする王であることを、議員たちは図らずもあかししてしまっています。

加えて、議員たちは、自らの願望を神に投影して、その願いを満たさないものを神と認めないという本末転倒の過ちを犯してしまいます。神はご自分からその姿を示すものであって、人間の願望を満たすための存在ではありません。

時として私たち自身も同じような思い違いをしてしまいます。自分が願っていることが適わないときに、神の存在を疑ってみたり、さらには神をののしってみたり、自分自身の願望を叶えるために神を利用しようとしたりするのが私たちです。時に自らの願望を神に投影しようとしたりします。いったい神と私たちと、どちらが世界を支配するものなのでしょう。

思い違いをしている私たちを目の前にしても、神は常にご自分のありのままであり続けられます。口を閉ざしてあざけりに耐え、いのちを賭してまで、仕えるものであらうとされます。世界を支配する王であるキリストは、私たちがその模範に倣い、常に仕えるものであらうとすることを求めています。自分の願望や欲望を満たすためではなく、他者のいのちを生かすために行動することを求めています。

王であるキリストの主日は、世界青年の日と定められています。教皇様は来年リスボン

で開催される世界青年大会を視野に、青年たちに教会とともに歩み続けるように呼びかけます。今年のメッセージのテーマはルカ福音書からとられた、「マリアは出かけて、急いで・・・行った」とされています。教皇様はメッセージで、「マリアが急いで出かけたように、神から特別の恵みを受けた人はそれを分かち合うために急いで出かけるのです。それは自分の必要よりも他者の必要を優先することができる人の急ぎです。・・・マリアは出会いと分かち合いと奉仕から生まれる純粋なつながりを見出すために出かけたのです」と述べています。

私たちも、出会いの中で分かち合い助け合ってともに歩み続けるものでありましょう。